

(仮称) 北こども園設計事業者選定プロポーザル 全体講評

現追浜保育園の老朽化、園児数の変化に伴うプログラムの再編などを目的にした今回のプロポーザルにご参加いただいた設計事業者の皆様に厚く御礼申し上げます。

まず簡単に今回のプロポーザルの選考委員会の経緯を振り返ります。1次選考(非公開)には26者の応募があり、その中からこれまでのこども園などの実績や今回のプロポーザルの主旨に対する考え方などを慎重に精査し、2次選考に5者選定しました。2次選考は各者発表15分、その後5名の選考委員会の委員による質疑応答が15分程度非公開で行われました。

今回の契約候補者に選定された事業者(一級建築士事務所アンブレ・アーキテクト)の案は、追浜という地域性や周辺の環境、さらには現状の園舎の状態や施設のあり方を丁寧に読み込んでいて、無理のない平面計画、上下の関係をさりげなく連続させる断面計画であり、将来的な内部の変更や保育室の細分化などにも的確なスケールの提示をしており、風通しの良さそうな室内環境がプレゼンテーションで良く理解できる内容でした。また、1階をRC造、2階から上を木造のハイブリット構造で提案しており、基礎への負荷の軽減や将来への可変性に対する視点やこどもの学び舎としての優しさも兼ね備えており、総合的にバランスの取れた提案が選考委員全員の評価に繋がりました。「2階の3、4、5歳児のワンルームとして提案された保育室をどう区切るか」についての質問にも的確な回答が得られ、最終的に全員一致で契約候補者に選定致しました。

惜しくも今回選定されなかった事業者(株相坂研介設計アトリエ)の提案は、RC造2階建てで、園舎外周をカーブ状の大きな壁によって囲み込み、周辺には閉じた環境を創りながらも、内部には安全で安心した開かれ方を採用し、さらには北側園庭と屋上庭園をスムーズに連続する大階段で繋ぐ外部環境の提案は、造形的にも活動の広がりも考慮しても大変魅力的な提案でした。同一敷地内での建て替え計画ではどうしても一時期園庭が確保できず、その期間は他の場所へ園児を移動せざるを得ませんが、この提案では屋上庭園がその間、園庭の代用となり、園児の安全や安心の確保においても優れた提案でした。最適候補者と最後まで競いましたが、追浜のあの場所で、ここまで外周に対して閉じる必要があるか、という疑問が最終的に両者の差を分けるかたちとなりました。

事業者(株キノアーキテクト)の提案も同じくRC造2階建てで、平面計画としては南側をある程度壁で抑え、東西方向、園庭のある北側方向に開かれた“円形”を全体のモチーフに取り込んだユニークな提案でした。この案で最も優れていたのはこの“円形”を大小様々なスケールに落とし込み、園児の活動の場所を大変丁寧に紡いで計画されているところです。こうした円形を多発して全体をまとめることは時にとても堅苦しいプランニングに陥りやすくなりますが、この提案ではその関係性も見事に解かれていました。選考委員から北側園庭に対する建物の構え(立面)の大きさと屋上の屋根の複雑さに対して幾つか疑問が挙げられ、

選定には至りませんでした。

事業者（株象設計集団）、事業者（株高橋茂弥建築設計事務所）においても、簡潔かつ明快なプランニング、丁寧な断面計画が一定の評価に繋がりましたが今回選定には至りませんでした。

1次選考に応募いただいた皆様、短期間にも関わらず、膨大なエネルギーをかけて（仮称）北こども園設計事業者選定プロポーザルの2次選考に進み、丁寧なプレゼンテーションに臨んでいただいた皆様には改めてお礼を申し上げます。

また、契約候補者に選ばれた事業者の方々には今後園を運営する運営母体の関係者さらには園を利用する保護者の方々、さらには園を見守る地域の方の声に是非耳を傾けて、追浜らしいこども園の創造をお願いしたいと思います。

令和7年7月

（仮称）北こども園設計事業者選考委員会委員一同